# Neve 1084 Preamp & EQ

## 70年代のクラシックなNeveプリアンプ。最高水準のEQを備えています。

レアなNeve 80シリーズのコンソールをドライブするエンジン、Neve 1084チャンネルアンプおよびEQは、多くの人が必要とするオーディオマスターピースです。そのクラスAプリアンプは、特徴的なNeveの明快さとキャラクターを提供し、EQのカラフルなパレットは、1073を超えるいくつかのステップを提供します。

UADハードウェアとApolloインターフェース専用のNeve 1084 Preamp & EQプラグインは、1970年代のイギリスの典型的なチャンネルモジュールのゴージャスなアナログキャラクターとカラーを詳細に再現しています。

### 新機能:

- クラシックNeve 1084チャンネルアンプとEQの世界で唯一本格的なプラグインエミュレーションを手に入れる
- ボーカル、ドラム、シンセ、ギターなどに拡張EQオプション を活用する
- 70年代のビンテージ・ハードウェアの10か所のクリッピングポイントを含む伝統的な Neveトーンを使って、ミックスの質感とEQを調整可能
- 1073を超えるEQカーブによって"エア感"を注入したり、問題のある周波数を抑える
- オリジナル・ハードウェアのAクラス、そしてUnison™ テクノロジー搭載のデュアルス テージ・マイクプリアンプのすべてのキャラクターを手に入れることが可能
- Darrell Thorp (Beck、Radiohead)、Jimmy Douglass (Pharrell、Timbaland)、
  Joe Chiccarelli (Jason Mraz、Beck)などのアーティストプリセットを使用してミックス

## 1084へのステップアップ

1084へのステップアップ

1970年に由緒あるNeve 1073チャンネルアンプがリリースされて間もなく、Neveは1084を発表しました。これは1073と同じクラスAマイク/ラインプリアンプを搭載し、3つのEQバンドとナロー/ワイドQ設定を切り替え可能にした"アップセル"モジュールです。この強力な組み合わせは、プロデューサーに虹のようなカラー、質感と精度を提供しました。

## Neve 1084のサーキットを唯一、隅から隅までエミュレーション

UAD Neve 1084 Preamp & EQプラグインは、デュアルステージのクラスA"Red Knob"プリアンプ、ポストフェーダー出力アンプ、音楽的なEQフィルターを徹底的にモデリングすることで、Neveオリジナルのアナログ設計のすべての機能、独特な回路の動作、誰もが必要とする暖かさを提供します。

## Apolloインターフェース用のUnison™テクノロジー

Neve 1084プラグインは、UAの画期的なUnisonテクノロジーを利用して、ハードウェアのマイクプリアンプ・インピーダンス、ゲインステージの"スイートスポット"、および回路の動作を再現し、オリジナルのNeveモジュールのすべての艶とパンチを、Apolloインターフェイスのマイクプリアンプ。

## ハイエンドヘブン

Neve 1084 Preamp and EQプラグインは、ビンテージハードウェアのEQを巧みに再現し、ボーカル、アコースティックギター、ドラム、シンセに、3つの選択可能なハイバンド・フィルター (10、12、16kHz)を使用して、アナログの奥行きとカラーを豊かにするための輝きとエア感を簡単に加えることができます。

## 勢いと重みを加える

Neve 1084プラグインのミッドバンドを使用して、ギター、ピアノ、ストリングスに力強さと粒立ちを加えたり、選択可能なHi Qを使用して、より過激ににシェイプしたりすることができます。プラグインのローバンドでは、キックドラムをタイトにしたり、ギターサウンドをプッシュしたり、シンセベースを強化したりすることができます。さらに、選択式のハイ/ローカットフィルターでシビランス、ヒス、ローエンドのもたつきをクリーンアップすることができます。

## UADハードウェアでチャートトップ・サウンドのような艶を加える

もちろん、Neve 1084 Preamp & EQはApolloのオーナーだけのものではありません。UADハードウェアのオーナーは、あらゆるミックスでNeve 1084プラグインを使用して、コンピューター内だけで、伝説の"Neveサウンド"でサウンドをシェイプすることができます。



Neve 1084 Preamp & EQ インターフェイス

## 操作について

Neve 1084 Preamp & EQは、オリジナルのP & Gアプトプットアッテネーション・フェーダーを含む、オリジナルのNeve 80シリーズコンソールから引き出されたヴィンテージの"ゴールデンユニット"チャンネルモジュールを元にモデリングしています。

UAのNeve 1084 は、クラスA プリアンプ、EQ 回路などを隅から隅まで忠実なモデリングを提供しています。。Marinarインプットトランスからはじまり、ApolloのUnisonテクノロジーを使用した場合の実際の物理インピーダンススイッチングなど含め、1084をとても入念にモデリングしています。トランス・ステージは、Neve のデュアルトランジスタプリアンプ(別名"Red Knob")や、特徴的な非対称なダイナミックデューティーサイクルクリッピングなどのクリッピングする場合としない場合のノンリニアリティのキャラクターを忠実にモデリングしています。

4バンド・アクティブイコライザーのフィルターインタラクションと内部アンプのクリッピング動作、パッシブローカット・フィルターとプリアンプアウトプットの EQの動作も同時にモデリングしています。プラグインは、1084 のポストフェーダー・アウトプットアンプ、アウトプットトランスやその他多くのノンリニアリティのキャラクターと、合計で10箇所のサーキットのクリッピングエリアもキャプチャーしています。

### コントロールのレイアウト



## Unison™ インテグレーション

UAD Neve 1084 Preamp & EQは、Universal AudioのApolloやArrowオーディオインターフェイスのマイクプリアンプハードウェアと統合して使用するためにUnisonテクノロジーに対応しています。を備えています。Unisonインターフェイスにより、クリアなマイクプリアンプは、エミュレートされたプリアンプのユニークな音響、入力特性、機能をすべて継承します。

注: Unisonは、プラグインがApollo / Arrowコンソールアプリケーション内の専用Unisonインサートに配置されている場合にのみ使用可能になります。詳細については、ApolloソフトウェアマニュアルまたはArrowマニュアルのUnisonの章を参照してください。

Unisonの使用中、ハードウェアプリアンプはモデリングしたプリアンプの物理的な入力インピーダンスに適応します。UAのクリアなアナログアンプと組み合わせると、クリーンからクリッピングまで幅広いプラグインのゲインとトーンのレンジを提供し、音楽的なスイートスポットを広げることができます。

#### リアルなタンデムコントロール

Unisonは、UAオーディオインターフェイスのデジタルコントロールをしているパネルハードウェアとUADプラグインのインターフェイスとの両方を使用して、プラグイン設定をシームレスにインタラクティブコントロールが可能です。すべてのプリアンプコントロール(ゲイン、カットフィルター、パッド、フェイズ)をミラーリングし、どちらからもコントロールすることが可能です。プリアンプ・コントロールは、ゲインレベルやクリッピングなどがも出稟議したプリアンプとまったく同じ相互作用で反応します。

### ハードウェア・インプットインピーダンス

すべてのApollo マイクプリアンプは、可変インプットインピーダンスを装備しており、Unison プラグインによって、マイクとプリアンプ抵抗の間の相互作用を物理的に切り替えることができます。このインピーダンスの切替えは、物理的にApolloのプリアンプがエミュレートしているユニットのインプットインピーダンスと一致させることができ、マイクのサウンドに大きな影響を与えます。電気的な負荷はA/D変換前の入力で発生するため、オリジナルのハードウェアに忠実に行われます。

#### タクティカル・ゲインステージング

UAオーディオインターフェイスのプリアンプノブは、ゲインステージモードを使用してUnison プラグイン内のすべてのゲインと使用可能なレベルパラメーターを独立してコントロールすることができます。調整中のゲインステージは、物理的なハードウェアノブを使用してコントロールできるため、ハードウェアのノブからゲインレベルや関連するカラーを調整し、ソフトウェアのインターフェイスに触れることなく正確な物理的に触れてコントロールすることができます。







Unisonゲインステージモードのときに表示されるゲインコントロールの3色のライン

## インプットノブについて

インプット・ゲイン・コントロール(別名: "Red Knob")は、マイクプリアンプ・インプットとライン・インプットのインプット・ゲインを調整します。ゲイン・パラメーターは、"MIC"や"LINE"テキスト・ボタンや、反対のゲイン・レンジの任意の値をクリックすることで切替えることができます。

テキストラベルをクリックしてMIC/LINE インプットを切り替えると、下図に示すようにノブの位置はインプットのゲイン・レンジに変更されます。

MIC/LINE Input Select (click) MIC. 30 -20



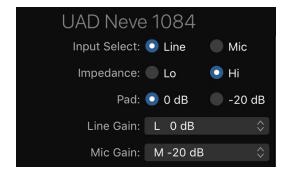


LINE Gain Range

Neve 1084 Preamp & EQのMic/Line インプットセレクトボタンとゲインノブのコントロールレンジ

**ピント**: 当初、Neve で使用されていた珍しい"ネガティブ値"のナンバリングは、ゲインにではなく感度に基づいています。例えば、インプットが -80 dBの感度を持つ場合、1073 のインプットセンシティビティ・ノブは一致するように -80 dB に設定されます。

下図に示すようにマイクインプットゲインとラインインプットゲインは、2つの別々のパラメーターです。オリジナルのハードウェアとは異なり、ノブは、他のインプットタイプに代わることなく1つのゲインパラメーターだけをコントロールするように制限されています。



Neve 1084 Preamp & EQのコントロールビューは、マイクとラインのパラメーターを個別に表示

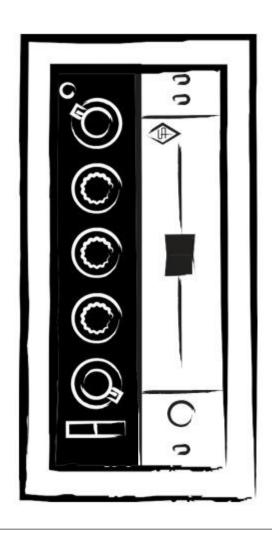
## アーティストプリセットへのアクセス

Neve 1084 Preamp & EQ には、著名なアーティストが作成したプリセットを収録しています。アーティストプリセットは内部のファクトリープリセットにあり、ホストアプリケーションのプリセットメニューからアクセスすることができます。それらは、Console アプリケーションでも使用できるよう、UAD インストーラーで一緒にインストールされます。

追加のアーティストプリセットには、ホストDAWアプリケーションのプリセットメニュー、UADツールバーの"Settings"メニュー、またはConsoleのプリセットマネージャーからアクセスできます。

Bassy Bob Brockmann	Joe Chiccarelli
Damian Taylor	Joel Hamilton
Darrell Thorp	Joey Waronker
Dave Isaac	Mitch Dane
Ivan Barias	Ross Hogarth
J.J. Blair	Ryan Hewitt
Jacquire King	Steve Levine
Jimmy Douglass	Trevor Lawrence Jr

Neve 1084 Preamp & EQ/Cプリセットを提供したアーティスト



## Neve 1084 Preamp & EQのコントロール

### Unisonインタラクションについて



コントロールの説明の中には、「Unison Interaction」の見出しで始まり、左側に「Unison」のアイコンが表示されているものもあります。これらのセクションの説明は、プラグインがConsole、またはLUNAアプリケーション内のApollo/Arrowプリアンプチャンネル上の専用UNISONインサートに配置されている場合にのみ適用されます。プラグインが標準インサート(非Unisonインサート)やDAW内で使用する場合、これらの説明は適用されません。

## インプットセレクト

インプットセレクトは、どの入力(マイク、またはライン)をゲインノブでコントロールするかを決定します。コントロールするインプットゲインを変更するにはマイク、またはラインと書かれたラベルをクリックしてください。



**ヒント**: インプット・セレクトは、インプット・タイプの範囲内にある"ドット"、またはゲイン値のラベルをクリックしても切り替えることもできます。

インプットセレクトを変更するとゲインノブはそのインプットタイプのレンジだけを使用できるように変更されます。

ハードウェアと同じように Nave 1084プラグインは、"バーチャル"マイクインプットを通してラインレベル・シグナルを簡単に送ることができます。そして歪みをクリエイティブな用途としてシグナルに加えることができます。これはマイクレベルのインプットにラインレベルのシグナルを送ることになるので、ゲインが大幅に上昇することが予想されます。

**重要**: ラインからマイクに変更する際、アウトプットレベルがかなり増加することになるので、充分にご注意ください(どのハードウェア・プリアンプでも同様です)。

# Unisonインタラクション

Neve 1084をConsole アプリケーション、またはLUNAアプリケーション内のUnisonインサートで使用すると、ソフトウェアとハードウェアのインプットセレクトのコントロールはミラーリングされます。インプットセレクトは、Console、またはLUNAのマイク/ラインボタン、プラグインのインターフェイス内、またはApolloのハードウェア・ボタン(Apollo:マイク/ライン、Apollo Twin:インプット)で変更することができます。

#### ラインゲイン

ラインゲインは、30dB のレンジを持ち、5dB ステップで調整可能です。インプットセレクトが "LINE"に設定されている時に調整可能です。

オリジナルのハードウェアと同じように反時計回りに回すとゲインが上昇します。しかし…

- Unisonモードでは、Apolloのプリアンプのレベルノブを時計回りに回すとゲインが 増加します。
- コントロールビューモードでは、左から右にコントロールスライダーを動かすことでゲインを増加します。

注: ラインゲインがオフに設定されている場合は、UAD DSP の負荷は軽減されます。(UAD-2 ロードロックされている場合を除く)

# Unisonインタラクション

Neve 1084がConsole、またはLUNA アプリケーションのUnisonインサートで使用され、ラインゲインがオフに設定されている場合、信号はミュートされます。これはオリジナルのハードウェアの動作と同じです。オフの位置にあっても UAD DSP負荷は軽減されません。

## マイクゲイン

マイクゲインは、60dBのレンジを持ち、5dBステップで調整可能です。マイクインプット・ゲインを増やすには、ノブを時計回りに回してください。インプットセレクトでマイクモードに設定されている場合、マイクのゲインのみを調整することができます。

# **じ** Unisonインタラクション

Neve 1084がConsole、またはLUNAアプリケーションのUnisonインサートで使用され、マイクゲインがオフに設定されている場合、シグナルはミュートされます。これはオリジナルのハードウェアの動作と同じです。オフの位置にあってもUAD DSPの負荷は軽減されません。

### Mic Z(インピーダンス)

マイクインプットのインピーダンスは、Mic Z スイッチで設定します。モデリングしているインプットインピーダンスは、(Unison モードで使用しない場合でも)シグナルにカラーやレスポンスになど微妙な影響を与えます。

#### LO

LO に設定した場合のマイク・インプットインピーダンスは、300 Ω です。

#### HI

HIに設定した場合、マイク・インプットインピーダンスは、1.2K Ω です。マイク・インプットインピーダンスは、ゲインが-20 ~ -50の間に設定されている場合は1.2Kオーム、ゲインが-55 ~ -80 の場合は600オームです。

注: Mic Zは、ラインインプット、またはUnison モードで Apolloの Hi-Z インプットを使用した場合は利用できません。これらの場合、コントロールを切り替えることができません。

オリジナルハードウェアを使用しているほとんどのスタジオでは、このコントロールを"HI(デフォルト)"のままにしておきます。エンジニアは(リボンマイクのような)低出力マイクを使用する際にハードウェアの設定を"LO"に変更する場合、モジュールの背面にあるコントロールを切り替えるために、コンソールの下に潜らなければならない場合があります。

## **じ** Unisonインタラクション

Neve 1084 をConsole、またはLUNAアプリケーション内のUnisonインサートで使用する場合、Apolloのマイクプリのハードウェア・インプットインピーダンスは、プラグイン内で設定されている値と一致するように切り替えらます。

もっとも近いインピーダンス値をマイクに合わせることが一般的ですが、このパラメーターをクリエイティブな用途で使用することができ、その場合にApolloのマイクプリアンプに害を与えることはありません。

## パッド

このスイッチを有効にすると、マイクインプット・レベルを、-20 dB 減衰させます。プリアンプゲインが低いレベルにあるときにオーバーロードディストーションが発生してしまう場合に、シグナルレベルを下げるために使用することができます。

注: PADは、ラインインプット、またはUnison モードで Apolloの Hi-Z インプットを使用した場合は利用できません。このケースでは切り替えることができません。

## Unisonインタラクション

Neve 1084をConsole、またはLUNA アプリケーション内のUnisonインサートで使用している場合、ソフトウェアとハードウェアのPADコントロールはミラーリングされます。PADは、プラグインのインターフェイス内、またはApolloのハードウェア上のPAD ボタンで切り替えることができます。

### ハイバンド

同軸ノブでコントロールできるスムーズなハイフリーケンシー・シェルビングイコライザーを提供します。内側はシェルフゲインを、外側はシェルフの周波数帯域、または減衰する帯域を選択することができます。

#### ハイゲイン

ハイバンドのゲインは、同軸ノブの内側のノブでコントロールします。ノブを時計回りに回すと Neveらしい艶が加わり、反時計回りに回すと高域のレスポンスが緩やかになります。

使用可能なレンジは、±20 dBです。ノブポジションが下に向いている時のバンドゲインは0です。

ヒント: ラベル "0"をクリックすると0dB の位置に戻すことができます。

#### ハイフリーケンシー

ハイシェルビングフリーケンシーは、同軸ノブの外側のノブでコントロールします。選択可能な ハイシェルビングフリーケンシーは、16 kHz、12 kHz、10 kHz、OFFです。

周波数を変更するには、外側のリングをドラッグするか、数値ラベルをクリックしてください。

ヒント: "kHz"ラベル(ノブの左下)、またはハイシェルビング・マーク(ノブの右下)をクリックすると使用可能な値を順番に切替えます。Shift + クリックでは逆進します。

## ミッドバンド

ミッドレンジは、2つの帯域を選択可能な同軸ノブによってコントロールするスムーズなセミパラメトリック・ミッドレンジイコライザーです。内側のノブはバンドゲインをコントロールし、外側のリングは周波数、減衰する帯域を選択します。

#### ミッドレンジゲイン

ミッドレンジのイコライゼーション・ゲインは同軸ノブの内側でコントロールします。コントロールを時計回りに回すとミッドレンジのゲインがブーストされ、反時計回りに回すとカットされます。

調整可能な範囲は±18dB です。ノブポジションが下に向いている時のバンドゲインは0です。

ヒント: ラベル "0"をクリックすると0dB の位置に戻すことができます。

#### ミッドフリーケンシー

ミッドレンジフリーケンシーは、同軸ノブの外側のノブでコントロールします。選択可能なミッドレンジフリーケンシーは、7.2 kHz、4.8 kHz、3.2 kHz、1.6 kHz、0.7 kHz、0.35kHz、オフです。

周波数を変更するには、外側のリングをドラッグするか、数値ラベルをクリックしてください。

ヒント: "kHz"ラベル(ノブの左下)、またはミッドレンジマーク(ノブの右下)をクリックすると使用可能な値を順番に切替えます。Shift + クリックでは逆進します。

#### ハイQセレクト

ミッドレンジバンドのレスポンスを通常の広い帯域幅から狭い帯域幅に切替え、よりシャープなEQを提供します。ハイQモードでは、ボタンが下(暗い)位置にあるときに動作中です。

### ローバンド

同軸ノブでコントロールできるスムーズなローフリーケンシー・シェルビングイコライザーを提供します。内側はシェルフゲインを、外側はシェルフの周波数帯域、または減衰する帯域を選択することができます。

#### ローゲイン

ローバンドのゲインは同軸ノブの内側でコントロールします。コントロールを時計回りに回すと ミッドレンジのゲインがブーストされ、反時計回りに回すとカットされます。

調整可能な範囲は±18dBです。ノブポジションが下に向いている時のバンドゲインは0です。

ヒント: ラベル "0"をクリックすると0dB の位置に戻すことができます。

#### ローフリーケンシー

ローシェルビングは、同軸ノブの外側のノブでコントロールします。選択可能なミッドレンジフリーケンシーは、35 Hz、60 Hz、110 Hz、220 Hz、オフです。.

周波数を変更するには、外側のリングをドラッグするか、数値ラベルをクリックしてください。

ヒント: "Hz"ラベル(ノブの左下)、またはローシェルフマーク(ノブの右下)をクリック すると使用可能な値を順番に切替えます。Shift + クリックでは逆進します。

## カットフィルター

独立したロー/ハイ・カットフィルターは、EQパネル下部にある同軸ノブでコントロールすることができます。ノブは、各カットフィルターの周波数を指定します。

カットフィルターを調整するには、ノブをドラッグするか、周波数ラベルをクリックしてください。

ヒント: 両方のカットフィルターをオフにするには、"OFF"と書かれたラベルをクリックしてください。

#### ハイカット

内側のノブは、ハイカット(ローパス)フィルターをコントロールします。選択可能な周波数は、18 kHz、14 kHz、10 kHz、8 kHz、7 toです。

ピント: ハイカットマーク、または"kHz"ラベル(ノブの右下)をクリックすると使用可能な値を順番に切替えます。Shift + クリックでは逆進します。

# Unisonインタラクション

Neve 1084 Preamp & EQがConsole、またはLUNAアプリケーション内のUnisonインサートで使用されている場合、EQLスイッチがオフになっていても、ハイカットフィルターは常に回路内に存在しています。

#### ローカット

外側のノブは、ローカット(ハイパス)フィルターをコントロールします。選択可能な周波数は、45 Hz、70 Hz、160 Hz、360 Hz、オフです。

ビント: ハイカットマーク、または"Hz"ラベル(ノブの左下)をクリックすると使用可能な値を順番に切替えます。Shift + クリックでは逆進します。

# Unisonインタラクション

Neve 1084 Preamp & EQがConsole、またはLUNAアプリケーション内のUnisonインサートで使用されている場合、以下のローカットフィルターの動作が適用されます。:

- EQL スイッチが無効になっていても、シグナルは常に回路を通っています。
- ゲインステージモードで動作中、Apollo / Arrowハードウェア・フィルタースイッチは、 オフとプラグイン内で最後に設定されたHz値間を切り替えます。

## フェイズ

信号の極性を反転させます。ボタンを押すと信号が反転します。通常のフェーズで使用時はスイッチをオフ(スイッチが明るいポジション)にしてください。

### **EQL**

EQL スイッチがイン(スイッチが暗い位置)にある時、イコライザーはオンになります。アウト(スイッチが明るい位置)になる時はオフになります。

ハードウェアの1084は、EQLスイッチをオフにしてもオーディオにはわずかに色付けを行います。これは、信号がその回路内を通っていいるためです。EQ がこのコントロールによってバイパスされた場合は、UAD DSP 消費率は軽減されます。(UAD-2ロードロックされている場合を除く)

ヒント:トゥルーバイパスが必要な場合は、インプットゲイン・コントロールをオフにしてください。

#### Level

モジュールのアウトプットステージでのシグナルレベルをコントロールします。オリジナルの Neve コンソールフェーダーの回路をこのコントロールのためにモデリングしました。

使用可能な範囲は- ∞dB (オフ)~ +10 dB の間です。ユニティ・ゲインは、"0"の位置です。 0dB 以上にレベルを上げるとアウトプット・アンプでクリッピングを起こす場合があります。

ヒント: ラベル "0"をクリックすると0dB の位置に戻すことができます。

## アウトプット

シグナルのキャラクターに影響を与えることなくプラグインのシグナルレベルを調整することができます。使用可能な範囲は、±24 dB です。

オリジナルのハードウェアには存在しないこのコントロールは、全体的なシグナルのカラーを最大化するために使用することができます。例えば、ゲインとレベルはディストーションを多く得るために高い値に設定したり、アウトプットを下げてレベルを調整することができます。

## パワー

プラグインのバイパスコントロールです。パワーは、シグナルを処理前/後で比較するために 役立ちます。オフに設定するとプラグインのエミュレーション処理は無効になり、UAD DSP の 消費率は軽減されます。(UAD ロードロック無効時)





Neve® Preamp、1073、1084、1081、31102、88RS、33609 のすべての視覚的および聴覚的な参照、および AMS-Neve の商標のすべての使用は、AMS-Neve Limited の書面による許可を得て行われています。Woody Jackson氏、David Walton氏、Mark Crabtree氏、Mitch Dane氏、Ross Hogarth氏、Jean Na氏に感謝の意を表します。